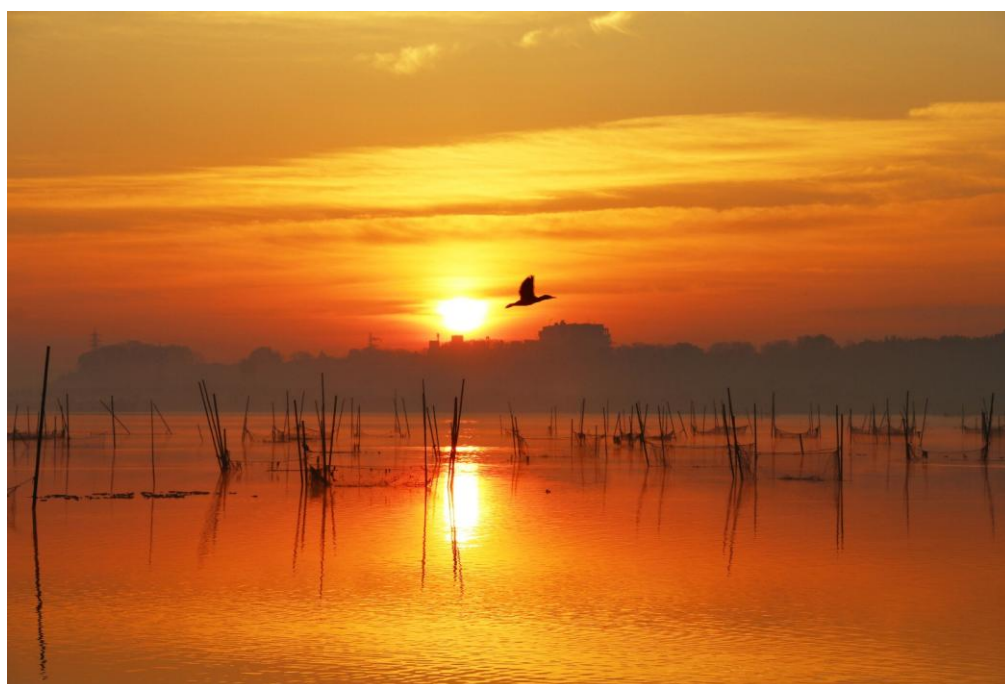


ちば水^水土^土里^里支援会報 NO. 36

令和8年1月29日発行
特定非営利活動法人
ちば水土里支援パートナー



印旛沼 船戸大橋附近からの日の出

—目次—

理事長挨拶	1
活動実績	2
活動状況	千葉土地改良協会千葉支部事務支援（役員会議）.....	2
	（視察研修）.....	3
寄稿	昭和45年災害応援記 会員 鈴木一雄	4
事務室をリニューアルしました	6

令和8年 新年あいさつ

理事長 杉野 宏

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。早くも理事長となり4年が過ぎました。この間、会員の皆様のご理解・ご協力により円滑に会を運営することができました。あらためまして会員、そして事務局の皆様の支援に感謝申し上げます。

いま、農業・農村は、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化等の課題に直面しているほか、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、気候変動、さらには地域紛争等の課題への早急な対応に迫られている中で、一昨年6月に「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正され、昨年は基本法の改正に伴い関連する「土地改良法」などの改正、そして「土地改良長期計画」が一年前倒しで改正される予定です。また、令和のコメ騒動により、米政策も令和9年度から大幅に改正する旨のアナウンスもあり、今までとはちがう画期的な農業政策・土地改良政策となることを期待しています。

昨年12月末に概算決定した令和8度の土地改良関係予算は4,504億円で、令和7年補正予算2,439億円と合せて6,942億円（R7:6,500億円）前年比で442億円増の予算が確保される予定です。

農業構造改革のため有効に使われることを願います。

予算については、会員の皆様方が活躍されていた数十年前からは大きく減っていますが、土地改良の職域代表として進藤かねひこ参議院議員・宮崎まさお前参議院議員が、地域の声を確実に農林水産省や政府に届けたことで、必要な予算の確保や新たな制度の創設などにより、農業の競争力強化、安全安心な食料の確保、防災・減災・国土強靱化ための予算が確保され、土地改良事業が確実に進められています。宮崎さんの7月の戦いは残念な結果となりましたが、今後のご活躍を陰ながら応援したいと思います。

今年度も多面的機能支払交付金事業の現地確認調査を千葉県土地改良事業団体連合会より受託し取り組んでいるほか、地域の土地改良協会の事務を受託し事務局を中心に取り組んでいます。土地改良協会の事務委託も年々少なくなっていますが、要望がある限り取り組んでいけたらと思います。

終わりに NPO ちば水土里支援パートナーも17年目を迎え、皆様の豊富な経験は、農業・農村の持続的な発展にまだまだ必要ですので、皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに、会の益々の発展を祈念して新年の挨拶といたします。

活動実績

(令和7年4月1日～令和8年1月29日)

月 日	活 動 内 容
4月 1日(月)	千葉県耕友会事務処理支援業務受託契約
"	千葉土地改良協会千葉支部事務支援業務受託契約
"	安房中央ダム定期点検業務受託契約
"	利根川流域調節池連絡会事務支援業務受託契約
4月18日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
4月22日(木)	千葉土地改良協会千葉支部第1回理事会(千葉市)
5月16日(金)	千葉土地改良協会会議(千葉・市原両支部)(市原市)
5月16日(金)	令和6年度水土里支援パートナー事業監査(土地改良会館)
"	令和7年度水土里支援パートナー第1回理事会(土地改良会館)
5月26日(月)	千葉土地改良協会千葉支部通常総会(千葉市)
6月13日(金)	令和6年度水土里支援パートナー第16回通常総会(土地改良会館)
6月19日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
6月21日(土)	千葉県耕友会総会開催(千葉市)
7月 1日(火)	第31回「農村環境写真コンテスト」審査会(土地改良会館)
7月25日(金)	利根川流域調節池連絡会第1回連絡会(柏市)
8月12日(火)	第31回「農村環境写真コンテスト」表彰式(きぼーる)
8月20日(水)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
9月16日(火)	ちば水土里支援会報 第35号発行 (県行政機関、関係土地改良区へは訪問して手渡した)
10月23日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
11月27日(木)	千葉土地改良協会千葉支部第2回理事会(千葉市)
12月12日(金)	令和7年度第1回役員会(千葉市)
12月18日(木)	多面的機能支払交付金現地確認業務(長生村)受託契約
12月25日(木)	多面的機能支払交付金現地確認業務(東庄町)受託契約
1月20日(火)	千葉土地改良協会千葉支部視察研修(大原幽学記念館ほか)

・活動状況 (事務支援業務)

5月16日 千葉土地改良協会役員会議(千葉・市原両支部)(千葉農業事務所)



令和8年1月20日 千葉土地改良協会千葉支部 視察研修

大原幽学記念館



ビデオによる大原幽学の生涯と宮負館長から展示物並びに屋外展示施設の丁寧な説明を受けました。

篠本新井土地改良区



伊橋理事長から経営体
育成基盤整備事業の概要
と基盤整備をきっかけに
設立された3集落営農組
織の状況を改良区作成資
料に基づいて説明を受け
ました。

・ 寄 稿

昭和45年災害応援記 会員 鈴木 一雄

(寄稿していただいた書式に合わせ縦書きで記載しました)

昭和四五年災害応援記

● 大多喜町編

ある日突然に降って沸いたように、大多喜町への災害応援を申し渡される。

さあ大変なことになった。何せ今だ全てについて半人前以下であり、特に仕事に関しては尚更であった。

ここ（現職場）にいれば、たいして役にもたないながらも小さい身体で大きな顔をしていられたものをと、嘆き節であった。

そうも謂ってられねえか。何とかやるつきやあねえなど身支度を始めたもんです。

昭和45年（1970年）7月1日の豪雨は県南部の大多喜町を襲い甚大な土砂災害・水害等を引き起こす。

県より災害復旧要員として、大多喜土木事務所を經由し大多喜町に赴任する。赴任早々に被災現地を案内され、河川の中に落ち込む県道橋、河川・県道の崩落等凄まじい惨状を目の当たりにする。

突然に 襲いし豪雨は 人々の

常の生活 奪い去りてか

赴任当日は被災現地の確認や町役場職員との班編制・食事などの打合せをする。

朝食と夕食は役場から歩いて七分程度にある大多喜駅に近接する「南園」という食堂でとることにした。昼飯は漬け物等簡単な付合わせをしたおにぎりを朝飯時に用意して貰い、筆記用具等と一緒にナップザックで背負っていった。

また洗濯は各自対応となったが、結局小生は役場の女史用務員に殆どお任せであった。気立てのいい女史用務員であるとき女性役場職員を嫁さんに連れ帰ることを勧められたこともあった。

県からの派遣員は班長の川上さん・九州出身の小原さん・井上栄さんそして小生の四人であった。

町役場職員の我々との連絡員は、小生と同年の吉野輝代治さん・鈴木さんそして元吉女史であった。

小生は町役場でトラック運転手の木内氏（？）と組み被災箇所の測量を行うことになった。

小生は入庁四年目で、まだ独り立ちもしていない若造であったが、そんなことを言っていられる訳もなく、有無を言わずに独り立ちせざるを得ない場面に追い込まれていた。高校時代の測量実習を思い出しながら必死な想いで取り組んだ。

木内さんは年下の小生の測量助手として頼もしい

相棒だった

昼間は日の暮れるまで目一杯現地の測量、夜は凶面起こしと査定設計書の作成と夜中まで仕事に励んだ。

昭和四五年（一九七〇年）一月二六日何時ものように、仕事場である災害復旧対策本部に出勤すると、次のようなとんでもないニュースが飛び込んできた。

『昭和四五年（一九七〇年）一月二五日、三島由紀夫は東京市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監部で割腹自殺を遂げる。』

三島は、自ら作った楯の会の会員四人とともに、日本刀・関の孫六を手に、総監部に押し入り、益田総監を縛り上げたうえ、自衛隊員に決起を促す演説をバルコニーで行った直後、三島と楯の会の隊員一人が切腹自殺を遂げたのであった。』

心酔している三島由紀夫である小生は役場連絡員の元吉女史に頼み込んで新聞全紙を手に入れ保管していたが、現在の住居に引っ越しの際に泣く泣く処分してしまった。

一方、丁度この日の晩であったと記憶しているが、季節外れの大雨が香取地域を襲っていたのであった。

この大雨は、佐原市・山田町・小見川町に大被害をもたらしたのであった。

この季節外れの大雨は小生のその後に大きく係わりを持つことになり、急遽本来の勤務地へ呼び戻されることになった。

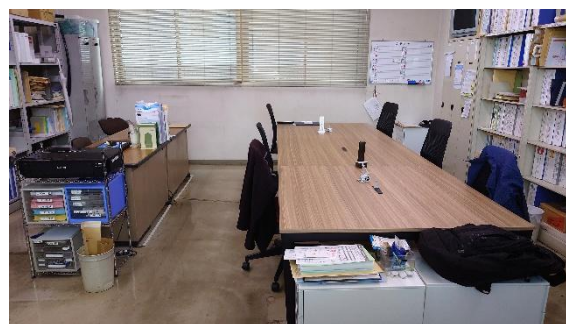
そして定年退職を迎え、何時しかあの日から四十八年が過ぎていた。

この頃になると無性に過去が懐かしくなり、四十八年振りに大多喜町役場を訪れ、既に退職している三人の連絡員を災害対策本部前で撮影した一枚の写真を手がかりに探してもらおう。

運のいいことに当時を知っている副町長の対応により、その内の一人である吉野輝代治氏と会うことが出来たのであった。

四十八年ぶりの出合いはまさに一瞬で昭和四十五年へと戻ることが出来、一つの思い出に次々と当時の事柄が誘発され、気がつくと四時間という刻が過ぎていた。

・事務室をリニューアルしました



千葉県土地改良事業団体連合会（以下、「土連」）の事務室のリニューアルに合わせて、NPO 事務室もリニューアルしました。

土連のご厚意により、設立当初より事務室の机・椅子等は古いものを有効活用させていただいていましたが、本年度に土連において事務機器等を全て入れ替えることとなり、NPO でも机・椅子等を更新することしました。

インターネットでできるだけ経済的な事務機器を購入し、事務局員総出で約1か月かかりましたが、ようやく新しい事務室が整いました。

新しい事務室の配置は、大きなテーブルの周りに事務局員が8名程度まで適宜座れる形式として自由度を持たせました。急な業務対応があった場合でも、事務作業がスムーズにこなすことができると思います。

また、普段はテーブルの上には何も置かないようにして、会員の来訪時には歓談できるよう努めています。

会員の皆様には、コーヒー等の湯茶の用意もしていますので、お近くにお越しの際は是非 NPO の事務室によっていただき、情報交換等の場として有効活用していただければ幸いです。

〈編集後記〉

令和8年1月1日は残念ながら雲が出ていて初日の出が撮れなく、巻頭の写真は前に撮った写真を利用しております。

2会員の方から投稿と土地改良事務所の前身についての資料の提案を頂いております。資料の記載方法など検討して次回につなげたいと考えています。(atsushi 記)

ちば水土里支援会報 第36号 (発行日 令和8年1月29日)

発行：特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナー(発行責任者：杉野宏)

会員：正会員 107名・19団体 賛助会員 16団体

事務局：〒261-0002 千葉県美浜区新港249番地8 千葉県土地改良会館別館

Tel 043-241-1755 <http://npochiba.boy.jp/npo>

銀行口座番号：千葉銀行本店営業部 3908901 特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナ

理事長 杉野 宏